

非核の政府を求める石川の会 会報

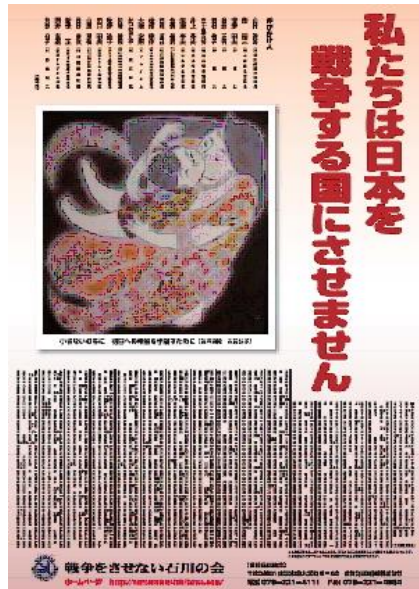
非核・いしかわ

第三回核兵器の人的影響に関する会議

核廃絶「法的枠組み」を強調して閉幕

一二月八日、九日、オーストリア・ウィーンにて開かれた「第三回核兵器の人的影響に関する会議」には一五八カ国、国連、赤十字国際委員会、NGO及び学術界等が参加した。今回の会議には、核保有五大国のうち、米国と英国が初めて参加した。

二日間の討議では、日本被団協の田中熙巳事務局長が「使用を前提として核兵器を容認する核抑止は、人類の破滅につながる。核兵器が使用されない保証は、核兵器が存在しないこと」と発言するなど、多くの非核保有国から核兵器禁止条約や法的枠組み



関連記事は5頁にあります

事務局 〒920-0848
 金沢市京町 28-8
 石川民医連労働組合気付
 Tel 076-251-0014
 郵便振替口座
 00760-0-15689
 会報込年会費 3000円

非核5項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する。

の交渉開始を求める声が出された。その一方、核保有国である米英及びNATO諸国、豪州、日本等は、核抑止の立場から現実的かつ実践的アプローチにもとづく段階を踏んだ核軍縮・不拡散の取組を支持すると主張した。

閉幕式にて議長国オーストリアは、「核兵器の完全廃絶が核兵器使用を防止する最も有効な方法であることを再確認した」「大半の国は、核兵器廃絶は核兵器禁止条約を含む法的枠組みの中で追求されるべきと強調した」とする議長総括を発表した。しかし、核兵器廃絶の具体的な手法については、「複数の国が、包括的核実験禁止条約（CTBT）など既存の枠組みによる段階的な核軍縮が最も有効かつ実践的な方法」と主張したことも議長総括に併記された。

広島・長崎の被爆七〇年を迎える二〇一五年のNPT再検討会議では、核兵器禁止条約の実現に向けたアプローチの方法をめぐる議論が最大の焦点になる。

「地球規模で思考し、地域から行動を起こそう」
 被爆国の日本政府の核抑止政策を変える草の根運動の大きなうねりをつくりましょう。



抜き打ち師走総選挙が終わった。いつもは早寝を決め込むのだが今回は夜半までTVとネット

でマスコミ各社の開票姿勢を追った。正確で速い当確表示、客観性と公平性、有権者の関心に応える設定等を確かめた。政権への距離感によりその姿勢は変わる。中でも奇異に感じたのは元総理の息子がどのチャンネルでも延々と画面を独占し続けていたことだ▼当初報道機関は首相の言う通り「アベノミクスが焦点」だったが直前は「アベノミクスなどが焦点」と直した。当然だがなお不十分だ。この間の暴走の数々それ自体が問われるべきだ▼火曜朝刊は選挙結果データが出揃った。ある地元紙は得票数だけでなく得票率を、また比例では惜敗率を見やすく記載し、資料としても重宝するものになっていた。

これは初めてではなからうか。票の積み上げが根拠である以上、この「率」が大事だ▼それにしても首相はその地元で川内原発を語らず沖縄にも行かず、小選挙区制度の歪んだ結果にアグラをかいて、民意に背き数々のゴリ押しをするのだろうか。語らず黙して洗礼をすませ、明文改憲を狙うなどやりたい放題の「核好き」政権。それへの監視の眼を緩めるわけにはいかない。(ま)

◆小森陽一さんの朝の授業◆

「憲法の本当の役割と平和の中で生きているとどう思うか」



二月六日、東大大学院教授で、九条の会事務局長の小森陽一さんをお迎えして、憲法の講義。九条をめぐる日本の歴史をきちっとおさえながら、今日現在までを一気に。

それはまるでジグソーパズルのピースが、一つ一つ埋まってつながっていくような、緻密で、そして実に明快な授業でした。

なぜ突然の選挙か

なぜ突然の選挙か、とされているが、実は七月の解釈改憲閣議決定に国民の反対が多かったこととおおいに関係あり。直後の世論調査で七割が、九条こそ大事と応えたが、結果はメディアに載らずネットでのみ小さく。でもその反対の多さゆえに、法案をすぐには出せなくなった。そのことを表立って問う間を持たせず、だから今、選挙しようとしている。

集团的自衛権の閣議決定はしても、法案を通さなければ、そこに「切れ目」が生じる。「国の存立を全うし、国民を守るための切れ目のない安全保障法制の整備について」という閣議決定の全文。小さい字でやたら長いのは、権力が国民をだますいつもの手。見ただけで読む気がなくなるでしょうが、これは大事な証拠物件ですからね。「あらたな三要件」

のとこだけはしっかり見てくださいよ、と、旧要件との違いをくつきり説明してください。「我が国に対する武力攻撃が発生した場合のみならず」の後に続く、「我が国と密接な関係にある他国に対する」の語句で、自衛隊の行ける範囲をいかようにもひろげていける。それが、切れ目のない、ということ。閣議決定した日が、実は自衛隊ができて六〇回目の誕生日だった、というのも、歴史的に見てぞっとするほどブラックな相似形。現政権の中心にいる人たちの、祖父からの三代に渡る世襲の害も、なおリアルに感じられてくる。

九条のしぼり

湾岸戦争の時、ブッシュに要請されても自衛隊を海外に出さなかった／出せなかった海部さん。それはもちろん九条のしぼり。これによって、アメリカのコバンザメとばかり思われていた日本が、実は九条というものを持つてる国だったんだ、と世界中のふつうの人が知ってしまったことの意味はものすごく大きい。「自衛隊の行くところが非戦闘地域なんです！」と小泉さんに言わしめたのも、九条の存在。そういうしぼりが、とどこどころに「切れ目」を生じさせてるんだ、と実感しました。

小森先生が私たちに尋ねる。「去年、特定秘密保護法が通った後の物騒なクリスマスプレゼント、覚えてますか、たった一年前だけでもう忘れた？南スーダンにPKOで行ってた自衛隊が韓国軍に一万発の銃弾あげてきちゃったでしょ。あれは憲法違反置いて来ちゃいけないものだった。こういう場面でそのつど、九条がひっかかってくる。それが、切れ目、ということ。日本版NSC、国家安全保障会議

ができて、その初仕事がこれでしたね。閣議決定だけで、武器輸出禁止の原則をすばやく変えてしまっただんです。ごく少数で、国家の大事なことを決めるようになっていって。自民党の憲法草案では、戦争になったら全部閣議決定していいことになっているしね」と。

草の根のちから

九条の会の歴史も語ってくださいました。二〇〇四年発足時、九条の会はほとんどニュースにもとりあげられなかった。当時は、憲法変えた方がいい、が六五%、変えなくていい、が二〇%だった。〇七年にはその割合がせめぎあい、〇八年には一五年ぶりに変えなくていい、が、九条を変える、をうまわった。この年は、イラクへの自衛隊派遣は憲法違反との名古屋高裁の判決が出た年でもある。それは、世論の転換があったから。一月の沖縄県知事選では、オール沖縄で闘って、新しい知事を選んだ。本土とは違う選挙のやり方で勝ったというのは、草の根のちからがこれだけ強ければこうなる、と証明していることです、と。

おおいに話しましょー

それにしても小森先生、戦後七〇年の歴史のポイントの日を、〇〇年〇月〇日、としっかり日付まで憶えてらっしゃる。「それは記憶力の問題じゃなくて、九条の会ができてからのこの一〇年、毎週どこかでしゃべってるからね。忘れる間がない、っていうか、しゃべり続ければ、忘れない。だからみなさん、おおいにしゃべりましょう。記憶を保持するためにも、草の根をひろげるためにも、近所と、まわりと、対話しましょう。」一人NHKになりまし

よう」。

授業は真剣で、熱くて、しかも内容は深刻なのに、なぜか笑いもいっぱい。気づきながら、考えさせられながら、元気がでてくる。世論を完全に無視することはできないんだな。私たちもただ無力じゃないんだな、と。

「切れ目なく、自衛隊をどこへでも」をあちらが狙ってるなら、こちらはその「切れ目」を保持していくことが大事なんだ。殺し殺される、の関係に入っていくかいかないか、今がその瀬戸際なのだからと確かに思えた授業でした。大雪の朝、ともに学んだ一〇数人の生徒たち、授業の中味をまわりに話そう、対話しよう、ひろげよう。それが先生へのお返し、と思います。

(オープンハウス「紅茶の時間」水野スウ)

◎本稿は二月六日、金沢市近江町交流プラザで開かれた平和サークルむぎわらぼうし、紅茶の時間、小森学級生徒会の三者共催による小森陽一さんの講演要旨です。

石川県原爆被災者友の会

被爆二世のつどい な「やかに」懇談

一月九日(日)、金沢市内の町家カフェ『茶論 花色木綿』を会場に二世のつどいが開催されました。最初に参加した一名が自己紹介してから、友の会事務局次長の中田喜重さんから「原爆絵画」のスライドを見ながら、自身の九歳の時の長崎での被爆体験も含めてお話がありました。「軍都であった長崎を早く離れて疎開しよう」と駅近くの旅館に泊ま

った翌日に被爆。その後は燃え盛る市街地を背に山手に向かって逃げただけで、記憶に残るような悲惨な光景は目にする事なく、数日で金沢に帰ってしまつた。自分の体験は他の被爆者の話を聞いたり本で勉強したりする中で得たものを繋いで語っている」とのこと。参加した他の一世の方からもコメントをいただきながら体験面を見ました。

その後は卓袱台(ちゃぶだい)を囲みながらの懇談です。自分の出産時に命を繋ぐ大切さをしみじみ語る父親の姿を思い出した。数少ない役員さんの奮闘ぶりを見てきて二世の会を呼びかけた。NPT再検討会議に参加して世界にアピールしていきたい。手話で語る体験を本にしていきたい。被爆問題は戦争での加害の事実も含めて語らないといけないと思つている。富山で仲間を誘つて二世の会を立ち上げたい。皆さんの集まる場になればと町家カフェを立ち上げ、毎月三人で世話人会をしながら運営している等々、それぞれの思いやアピールしたいことをコーヒーとお菓子を食べながらな「やかに」語り合いました。

あつと言う間の二時間で、次の企画を楽しみにして散会しました。

(石川県原爆被災者友の会事務局 池田治夫)

核戦争を防止する石川医師の会

中能登町立小中学校に

漫画『はだしのゲン』を五セット寄贈

核戦争を防止する石川医師の会(石川反核医師の会)では核戦争による被害や被爆の実相を子どもた

ち



池島憲雄教育長(左から3人目)に漫画『はだしのゲン』を寄贈する白崎良明反核医師の会代表世話人

に伝える図書として、漫画『はだしのゲン』(中沢啓治作/全一〇巻)を県内の小中学校図書室に寄贈する運動に取り組んでいます。この寄贈運動は二〇一一年より始め、これまでに金沢市、野々市市、内灘町、七尾市、能美市、輪島市、中能登町の七市町、小中学校六三校に寄贈しました(日本語版六四セット、英語版二セット)。

二月五日には、中能登町教育委員会を通じて五セットを寄贈してきました。これは一〇月三十一日に非核石川の会が行った中能登町長との懇談がきっかけで実現したもので、ここで寄贈の報告をさせていただきます。

今回、中能登町教育委員会に伺ったのは、反核医師の会代表世話人の白崎良明先生、事務局の小野、はだしのゲンをひろめる会理事長の浅妻南海江さん、理事の神田順一さん、応対されたのは教育長の池島憲雄氏、教育文化課長の植田一成氏、学校教育担当課長の林大智氏でした。

寄贈にあたっては教育委員会の協力のもと、町内の小中学校六校に寄贈希望アンケートを実施したところ、来年四月に合併される小学一校をのぞき、全ての学校が寄贈を希望しました。所蔵していない学校ばかりでなく、六セットも所蔵しているけれども、欠巻があることや、より多くの生徒が読めるようにと寄贈を希望した小学校もありました。また、蔵書がないため町立図書館から借りてこようという話になっていた学校もあったようで、寄贈のタイミングもちようど良かったようです。

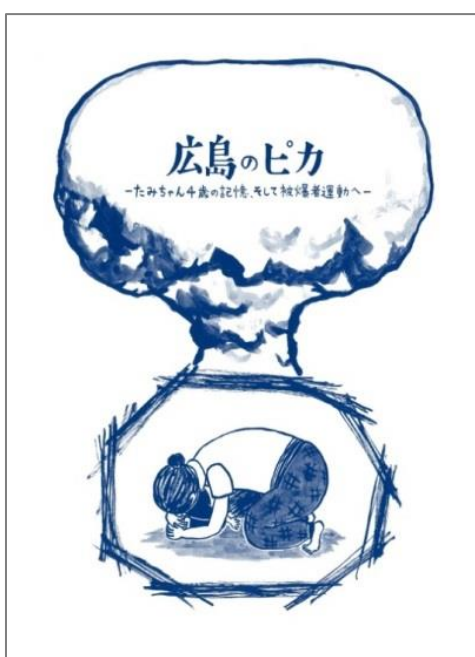
中能登町の小中学校では、毎年八月六日を全校登校日として、平和集会が欠かさず行われています。池島教育長をはじめ皆さんがそのことを大変誇らしく話されていたのが印象的でした。また、教育長は、「今回の寄贈をきっかけに、平和集会で『ゲン』を題材に取り上げるのも良いかもしれない」ともおっしゃっていました。さらに、今回の懇談で何よりの収穫は、中学生の英語教育図書として英語版一セットの購入を即決してくださったことです。浅妻さんが英語版や「ひろめる会」の活動などを紹介された際に、英語版と日本語版を代わる代わる手に取って見比べ、翻訳の苦労を実感してくださったことも決め手の一つになったようです。英語版は今後、中能登中学校の蔵書として活用いただけることになりました。

今回の中能登町教育委員会との懇談では、町内の小中学校で『ゲン』が広く読まれていることが分かりました。また、子どもたちの「読みたい」という願いに応えようという先生方の熱意と、良い意味で時流に流されることなく平和教育を実践されてい

ることを知りました。一昨年の松江市教育委員会の『ゲン』閉架措置の例を挙げるまでもなく、昨今の平和教育のあり方に不安を募らせていましたが、今回は充実感とともに、一同、笑顔で帰宅の途につきました。

(核戦争を防止する石川医師の会事務局・小野栄子)

【追記】『はだしのゲン』の寄贈のほかに、石川県原爆被災者友の会事務局長・西本多美子さんの被爆証言『広島のピカ』(別掲)を中能登町教育委員会および各学校に一冊ずつ寄贈し、平和教育に役立てていただくこともお願いしてきました。非核石川の会の皆さんもぜひ普及にご協力をお願いします。



『広島のパカ』A4判／四六ページ／二〇一四年一月(第三刷)、平和サークルむぎわらぼうし発行。頒価五百円。注文は核戦争を防止する石川医師の会または石川県原爆被災者友の会まで。(本紙に注文书を同封しました)

◇特別寄稿◇
日米防衛協力のための指針見直しその狙いは！(集団的自衛権行使と指針中間報告から見えるもの)

柴原和美

1. 日本の安全保障を巡る最近の動き

二〇一三年一〇月に開催された日米安全保障協議委員会は、「同盟のグローバルな性質を反映する協力範囲の拡大」「地域のパートナーとのより緊密な安全保障協力の促進」「相互の能力強化に基づく適切な役割分担の提示」「同盟強化を可能とする追加的な方策の探求」等を目的に、日米防衛協力のための指針の見直し等を確認した。

確認された内容は、その後の一連の安倍政権の動きに反映されていく。二〇一三年一月には「安全保障会議」設置と「国家安全保障戦略」策定。同年一二月の「平成二六年度以降に係る防衛計画の大綱について」閣議決定。二〇一四年七月の「集団的自衛権行使容認」閣議決定。そして、同年一〇月の「日米防衛協力のための指針の見直しに関する中間報告」である。

2. 既に行われている集団的自衛権行使想定訓練

集団的自衛権行使容認の閣議決定以前から、日米共同訓練が実施され、自衛隊と米軍の統合運用がすすめられてきた。二〇一三年八月一三日付東京新聞(北陸中日新聞)は、航空自衛隊部内誌「飛行と安全」(二〇一二年七月号)に、アラスカで行われた米軍が主催の演習(レッドフラッグ・アラスカ)に参加した小松基地のF-15戦闘機が米軍のB-52

戦略爆撃機を援護する訓練を行ったとの体験記が掲載されていると報じた。

※注：B五二戦略爆撃機は、長い航続距離と多量の爆弾を積む搭載能力から、大陸間弾道ミサイル、弾道ミサイル原子力潜水艦とともに米国の核戦略の柱を成す航空機

訓練は、敵国を爆撃する任務を持ったB五二を敵の戦闘機から守るものであり、まさに米軍と一緒に戦う訓練である。集団的自衛権行使を前提にした訓練であったことは明らかである。

二〇一四年五月には、笠井亮衆議院議員（日本共産党）が外務委員会でのことを追及。若宮政務官（防衛省）は、体験記が二〇〇九年一〇月の演習に参加した際のものであること、記事が「隊員の実体験」を記したものであることを認めた。

3. 指針中間報告から見えるもの

日米防衛協力のための指針の見直しに関する中間報告は①協力地域の拡大（グローバル化）、②日米のより強固な密着、③協力内容の曖昧さの特徴がある。

「アジア太平洋及びこれを超えた地域」の表現にあるように、地域は際限なく拡大され宇宙にまで及ぶ。また、各所に「切れ目ない」の記述があり、日米の結びつきをより強固なものにし、連携を強化していくことがうかがえる。「地域の及びグローバルな平和と安全のための協力」として海洋安全保障等七項目をあげているが、「これに限定されない」とあり、最終文書では集団的自衛権行使容認の閣議決定を踏まえたものが考えられる。

4. 元気をもらった沖縄県知事選挙結果

米国の戦略に沿った日本政府の動き、先行する自衛隊の危険な動きについて述べてきたが、私たち国民は黙って手をこまねいているほどお人好しではない。集団的自衛権の行使容認など安倍政権の安全保障政策について「支持しない」が五三・三％（共同／十一月二八日・二九日）と過半数を上回った。全国でデモや集会等が行われている。沖縄県知事選挙では、辺野古新基地建設反対を掲げた翁長氏が一〇万票の差をつけて圧勝した。安倍政権の思惑に風穴を開ける大きな成果である。全国の運動が元気をもらって更に大きく盛り上がり、安倍政権を追い詰めていくことに期待する。

（安保破棄石川県実行委員会事務局長）

非核平和の海外情勢

非核の政府を求める会第二七八回常任世話人会が、十一月二八日にあり、藤田常任世話人から国連総会での討議状況が報告された。

今年の国連総会の第一委員会是一般討論で一〇七件の発言があり、記録的な事態だった。また、核兵器に関する決議が六一件あり、これも最多だった。十二月に総会で決議されるが、このことは改めて報告したい。

一月八日〜九日にウィーンで「人道性の結末」に関する国際会議が開催される。この会議にアメリカが出席する。

アメリカは「人道的影響の論議は今後もなくならない。これに関与することが、核保有国自身の利益になる」と述べる一方、「核軍縮は会議の議題にし

ない」との条件をつけて参加するとの報道がある。核兵器のない世界に向けて、国連総会からウィーンの会議、そして、来年のNPT再検討会議に向けて大きな動きを作り上げる必要がある。

（原和人全国の会常任世話人の報告から）
*文責は編集部。この核兵器の人道性の影響に関する会議にはこれまで米英仏中露の核保有五か国は参加してこなかった。一月八日、九日にウィーンで開かれた第三回会議の概要は本紙一面に掲載した。



戦争をさせない石川の会

八八八人の賛同にて「意見ポスター」を作成しました！

戦争をさせない石川の会が、安倍政権の解釈改憲による集団的自衛権の行使容認、「戦争できる国づくり」に反対の意志を表明する意見ポスター『私たちは日本を戦争する国にさせません』を作成するため、賛同人を呼びかけたところ、僅か一か月半の短期間に県内外の八八八人から賛同募金の申込みがありました。戦争をさせない石川の会では、この意見ポスター（A2判カラー印刷／一面に掲載）を二、五〇〇枚印刷し、一月中旬に賛同人に二枚ずつ配布し、普及と活用を呼びかけます。

非核石川の会 リレーエッセイ

未来の子どもたちに

牧野逸子

今年も八月のはじめ、仲間たちと共に『原爆と人間展』を開催した。いつも世界中に存在する核兵器の数と所有国も展示している。その数を見ると、二大国を中心にならみ合いしながら、よくもたくさんつくったものだときれる。徐々に廃棄していくというが、いまだ一万余千の核兵器が地球上にはある。近年は、北朝鮮やイスラエルも所持しているというから危なかくして仕方がない。

一二月八日からウィーンで開かれている核兵器の非人道性に関する国際会議で、核爆発の可能性はゼロではない、核廃絶は緊急の課題という発言が多い中、米代表は核兵器禁止条約反対と表明。がっかりする朝だ。

私たちの『原爆と人間展』では、核や戦争に関連のある写真や記事も展示している。今年には福島原発の拡大コピーや詩など、漫画『はだしのゲン』を一揃い持ってきた人もいた。



焼き場の少年

(ジョー・オダネル撮影)

私は知人から借りている『トランクの中の日本』を持参した。米軍のカメラマン、ジョー・オダネルは広島、長崎の被爆状況を撮るのが任務であったが、あまりにも悲惨な光景の中の心に止った日本人をたくさん撮りトランクの中に長年隠してあった。公開してからスミソニアンからはポイコットされたが、きのこ雲の下で起きた事実を伝えることを使命とすると言っている。彼も原爆症だったのだ。

死んだ赤ん坊を背負って、死臭に満ちた焼き場で順番を待つ少年、口を引き結び、直立不動の姿で弟を見送った少年、あまりにも有名な写真である。あの子どもはどこへ行き、どうして生きていくのだろうか、とオダネルも言っている。会場に高齢男性が『トランクの中の日本』を開いていたが、おもむろに一人手を合わせ黙祷していた。

やはりすべては広島、長崎からはじまったのだ。子どもたちの未来を私たちは保障してやれるのだろうか。

職場でも地域でも アピール署名に取り組んで

榊田辰男

私は一九四〇年生まれ（昭和一五年）、翌年第二次世界大戦が始まりました。私の小さい頃は戦争の時代でした。夜になると防空壕に、昼は私の家は農家であったため小さいながらも農作業を手伝わされた時代でした。

一九五九年（昭和三四年）、会社に入社するも労働組合が弱く役員のなり手がなく、全国で六〇年安保闘争が闘われた時、私は国会行動に参加し、安保

で目覚めるようになりました。その後労組の役員になったため、富山・福井と配転させられましたが、金沢に戻りました。金沢支部、地域協議会役員を経て、平和の活動に参加するようになりました。

職場でも地域でも『核兵器全面禁止アピール署名』が取り組まれました。金沢でも住民過半数を達成することができました。そして二〇一〇年五月、国連核不拡散条約（NPT）再検討会議に向けた要請行動に全国から石川からも参加しました。

二〇一一年二月一五日、被爆地広島、長崎から両市長はじめ、広範な人々の賛同を得て、『核兵器全面禁止アピール署名』が再びスタートしました。この署名は毎年の国連総会に提出されます。

詩人会議かなざわ「独標」より

市村金物店

安田 桂子

川のほとりで
店は寡黙だ

（この街道に人が溢れていた時代があった）

毎朝 七時五十分
店主は十枚のブリキ戸を戸袋に納め
朝の祈りのような背中を見せて
十枚のガラス戸を磨き上げ
ひとつ ひとつの金物を
羽二重の布裂で丁寧拭いていく
滅多に客は来ない

店の片隅の丸椅子に座り
時々 外に目を投げ本を読んでいる
訪れた客には

わざわざ ようこそ お越し下さって
と 水のような声で深々と札を言い
近頃 品数が少なくなつて
なんとも面目無いことごと

眼鏡の奥のひっそりとした瞳が詫びる
ガラス戸に

陽が照り 翳り

雨や雪に濡れ

いちにちが

ゆるやかな傾斜で暮れていく

春の朝

きりりと光るガラス戸に

店主は律儀な指で

いちまいの小さな白い紙を貼る

店仕舞い致します

永年の御愛顧ありがとうございます
たつぷりと墨を含ませた美しい文字だ

閉店売出しセールもなく

貼紙は糊の跡を斑に残し一週間で消えた

ブリキ戸は締められ

その向うのガラス戸に

もう日射しは届かない

市村金物店と金文字で刻んだ

一枚板の様の看板だけが

小屋根の上にいる

NP T再検討会議に向けて 代表派遣費用の募金のお礼と報告

広島・長崎被爆七〇周年と核不拡散条約(NP T)再検討会議を来年四月に控え、国際的にも会議が重ねられております。

非核石川の会から井上英夫代表を派遣する準備をしていますが、会員の中からも他団体の代表として中内晃子さん、池田治夫さん、内藤晴一郎さんなどが参加されることを聞いております。

非核石川の会では代表派遣費用の一部を負担したいと会員の皆さんに募金をお願いいたしましたところ、早速十五人様から四五、五〇〇円が寄せられました。深くお礼を申し上げご報告いたします。

引き続き会費納入と代表派遣募金の受付をいたしておりますので、よろしくお願い申し上げます。寒さ厳しい折から、皆様にはご自愛くださいますようお願い申し上げます。

(非核の政府を求める石川の会常任世話人会)

**NO
NUKES**

子どもの
未来のために

ちひろ美術館

《編集室より》

◎「オール沖縄」全勝 犠牲強要を拒む意思表示
「見ぬふり」の壁に穴を(琉球新報)社説(2014/12/16)
その一節の《分断統治》には「…復活当選した自民
党議員たちは今後選択を迫られる。比例区当選者と
して政府の代弁者となるか、沖縄の民意を体現する
かだ。言い換えれば、日本への過剰同化を進めて『植
民地エリート』となるか、誇りある立場で沖縄の自
己決定権獲得に貢献するか、である。採るべき道は
自明だろう。新知事も議員たちももう一度結集し、
手を携えて、沖縄に犠牲を強要する「見て見ぬふり」
の壁に穴をうがってほしい」とある。憲法の「地方
自治の本旨」のもと、総選挙に示された沖縄県民の
総意に基づいて進めるべきであると思う。詳細は
「琉球新報」HPをご参照下さい。(一)

◎今回の衆議院選挙公示日の翌日、期日前投票に出
かけた私は最高裁判事の国民審査の投票ができな
かった。総選挙と国民審査は同時に実施されると思
っていたが、調べてみると総選挙の期日前投票は公
示日の翌日から可能であるが、国民審査の期日前投
票は投票日の七日前からと定められている(最高裁
判所国民審査法)。告示日の翌日から四日間までに
期日前投票を行った者が国民審査に投票するため
には七日目以降に改めて出直さなければならぬとい
う。このような不合理な制度については過日地
元新聞にも投稿があった。有権者はもとより選挙管
理委員会の現場からも是正を求める声が上がって
いる。総選挙公示日の翌日から国民審査の期日前投
票が実施できるよう法改正を求めている。(か)

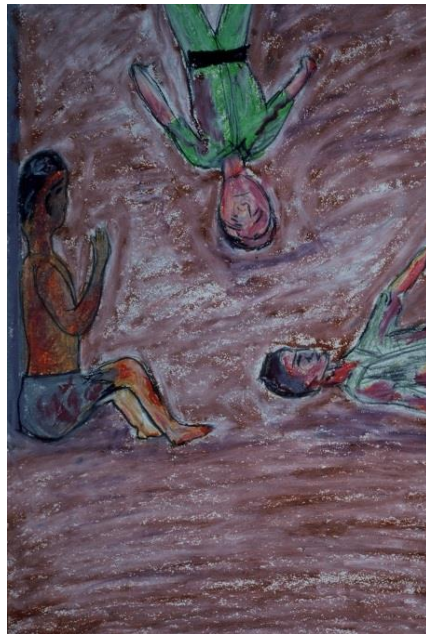
「被爆者が描いた体験画展」シリーズ③

石川県原爆被災者友の会 中田喜重

水をくださいー！

「水！みず！ミズ！をくださいー！」の声。
午後三時から四時頃、被ばく地点まで戻りみれば、わが同輩の死体とともに、幾多の被害者が水を求めている。

また、そのうちの一人は、横たわる人に押んでい
る。治安維持と救護の命を受け、現地を離れる折、
そばにあった手桶で、末期の水を与えた。
今なお、地獄の声を忘れることができない



昭和二〇年八月六日夜から
死体を火葬。

死体を二、三本ずつ穴に入れて、家の壊れた木材
で油をかけて、夜中に焼く。
どこの人かさっぱりわからない。



(被爆体験画は1977年7月7日、中田喜重撮影)

絵手紙コーナー



金沢医療生活協同組合絵手紙班
竹味 恭子

非核・平和 行事予定					
月	日	曜	時	行事	場所
	1	木	10:00	核廃絶アピール署名	尾山神社前
1	11	土	11:00	平和サークルむぎわらぼうし『一品持ち寄り新年会』	石川県教育会館4F
	22	木	18:30	平和民主団体『新春のつどい』	石川県教育会館2F
2	7	土	13:30	石川県社会保障推進協議会・新春社会保障講演会(講師 渡辺治さん)	石川県社会福祉会館ホール
	27	金	18:30	「青ひげ先生の聴診器」公演(お問合せ石川民医連)	金沢市文化ホール
	28	土	14:30	「青ひげ先生の聴診器」公演(同上)	金沢市文化ホール
	28	土	13:00	3・1ピクニデー原水協集会和分科会	焼津市文化ホール
3	1	日	9:15	墓参行進・墓前祭、3・1ピクニデー集會	焼津市文化ホール
	14	土	17:00	戦医研北陸支部研究会「戦争と医療 日独の医師・医師会の違いの検討」	金沢市近江町交流プラザ
	15	日	14:30	「日本軍『慰安婦』問題とは～芝居とお話」(有馬理恵さん)	金沢市文化ホール集會室
	22	日	15:00	八法亭みややっ子寄席(お問合せ金沢弁護士会)	石川県教育会館3Fホール
4	11	土	10:00	むぎわらぼうし例会・映画「アオギリにたくして」試写会	金沢市松ヶ枝福祉館
	24	金		NPT再検討会議ニューヨーク要請行動(～5/1金)	ニューヨーク

*毎週金曜日18:30…どいね原発アピール行動 金沢駅東口
*毎月6日、9日12:00…核廃絶アピール署名6・9行動 Mza前